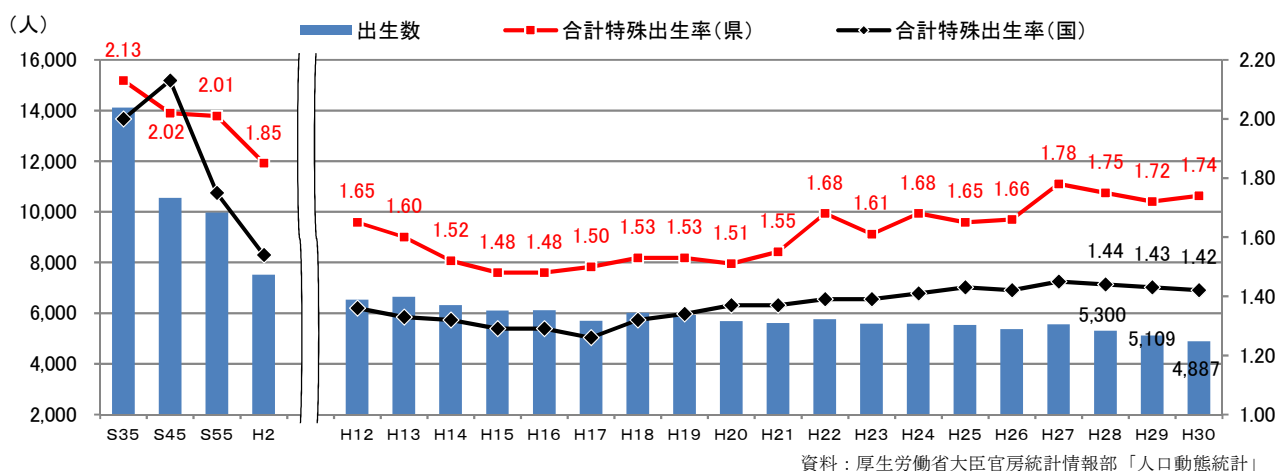


## 第2章 島根県の子ども・子育てを取り巻く現状

### 1 少子化の進行

- 島根県の出生数は、戦後のベビーブームをピークに減少に転じ、近年は、増加と減少を繰り返しながら、緩やかな減少傾向にあります。
- 合計特殊出生率も、出生数と同様に減少傾向にありましたが、平成17年以降は、増加傾向に転じています。平成30年の合計特殊出生率は1.74で、全国平均1.42より高い状況（全国2位）にあります。

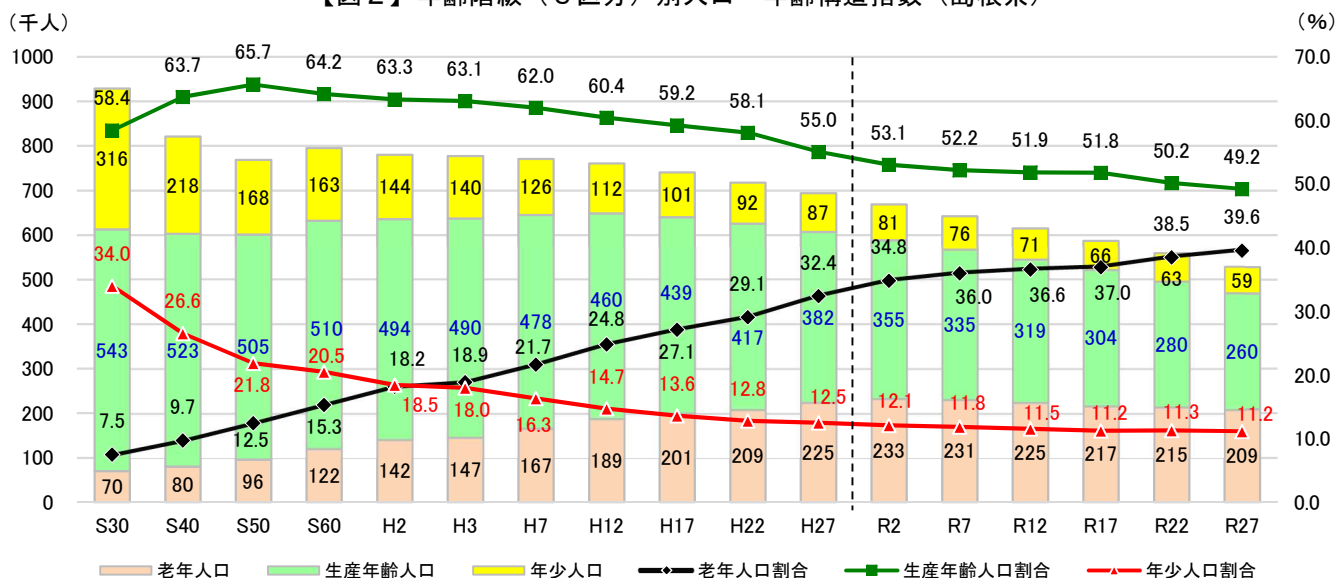
【図1】出生数と婚姻数、合計特殊出生率の推移（全国・島根県）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

- 平成3年に年少人口（15歳未満）と老年人口が逆転し、平成4年以降、死亡数が出生数を上回る自然減となっており、県の人口減少の大きな要因となっています。
- このまま少子化が進むと、令和12年（2030年）には総人口が現在より約7.9万人少ない61.5万人となるとともに、年少人口と生産年齢人口（15歳～64歳）が減少する一方で、老年人口が増加し、老年人口は年少人口の約3.2倍になると予想されています。

【図2】年齢階級（3区分）別人口・年齢構造指数（島根県）



資料：総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」

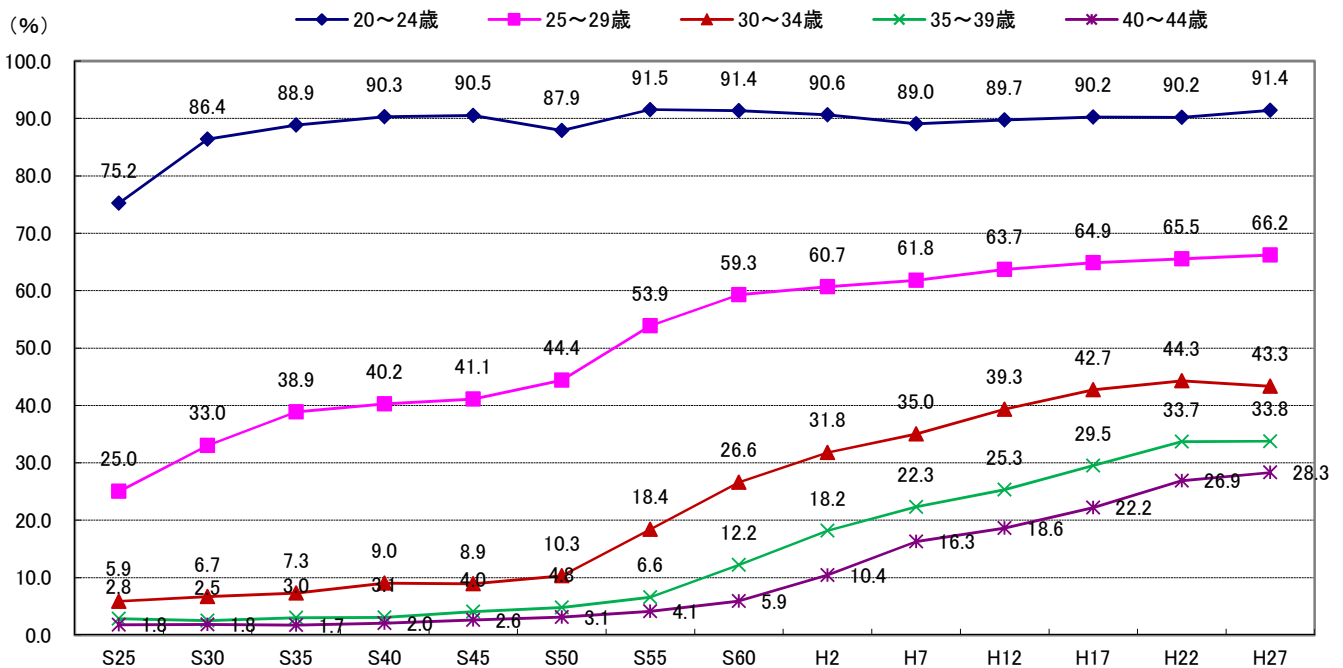
## 2 少子化の要因

少子化の要因として、「未婚・晩婚化の進行」や「夫婦の出生児数の減少」、「子どもを産む若い世代の人口の減少」等があげられます。

### (1) 未婚化・晩婚化の進行

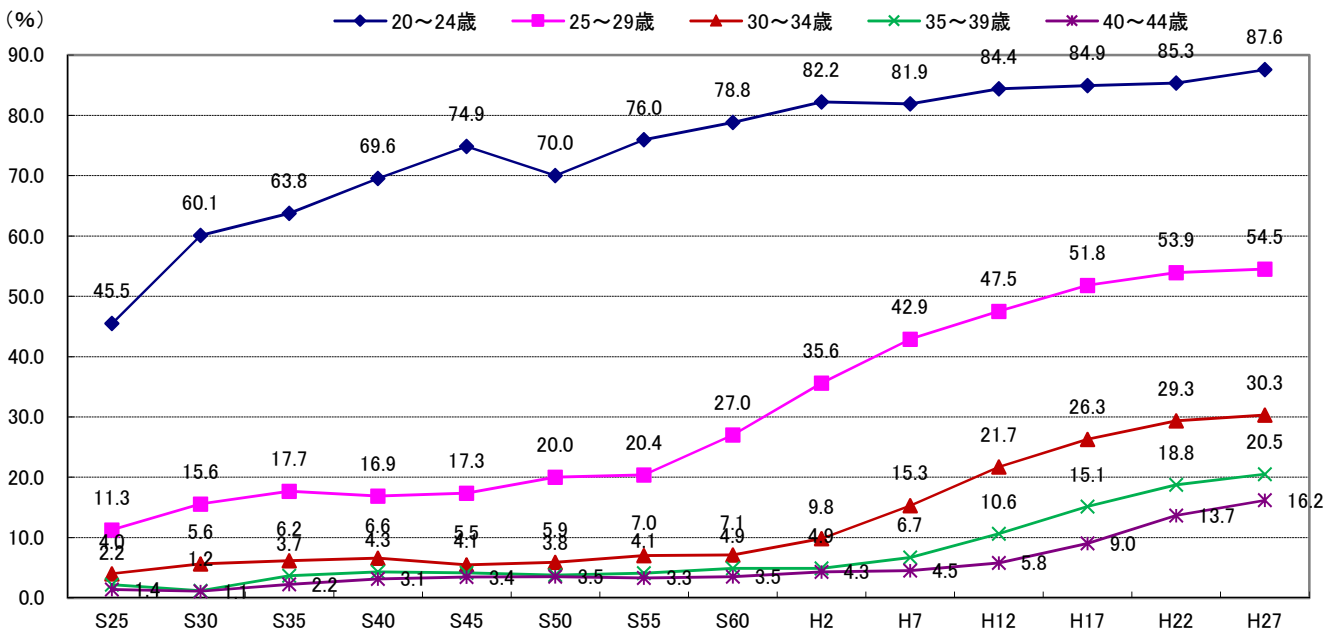
○ 島根県においても、未婚率は、男女ともほぼ全ての年代で上昇しています。

【図3】 男性年齢階級別未婚率（島根県）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

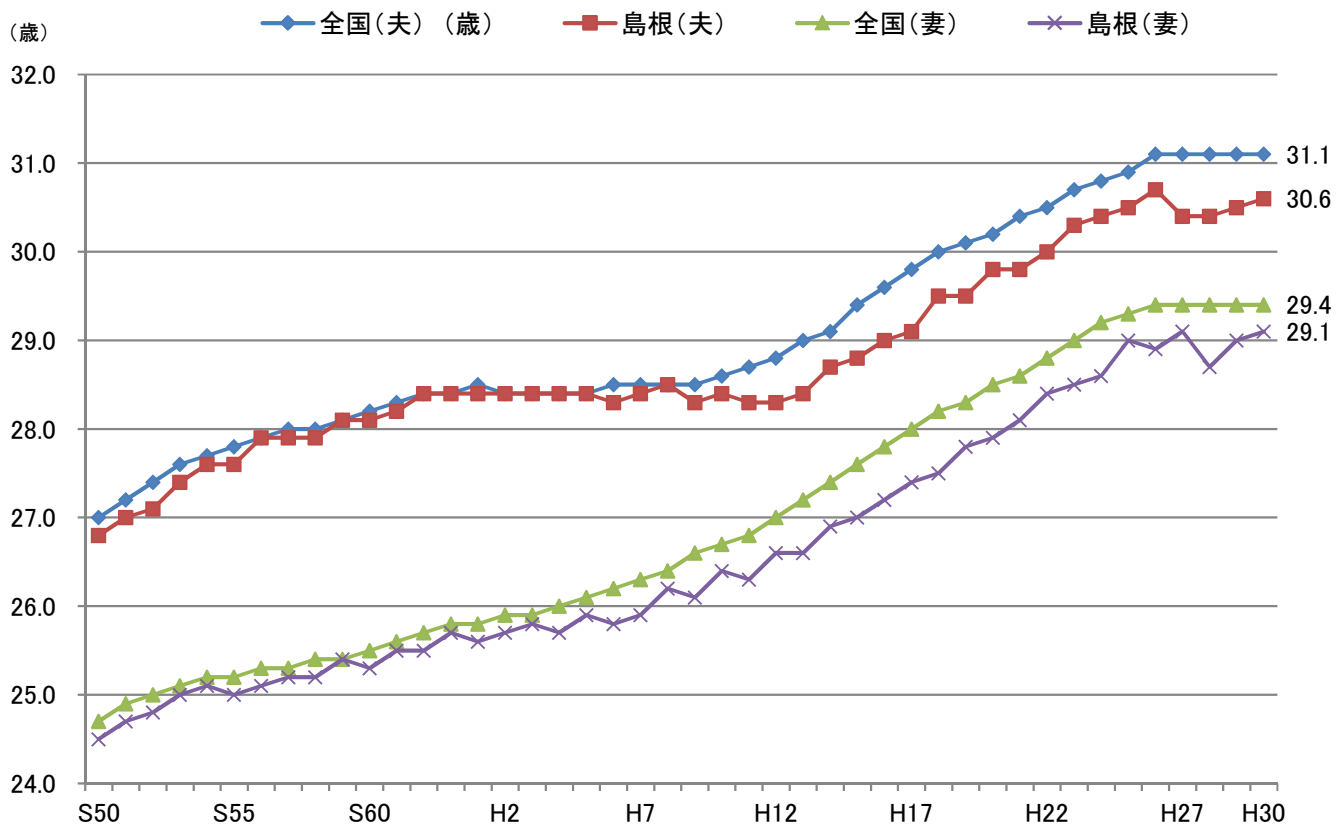
【図4】 女性年齢階級別未婚率（島根県）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

- 平均初婚年齢は年々上昇し、晩婚化が進んでいます。近年は全国的には横ばい傾向となっていますが、島根県は依然として晩婚化が進んでいます。

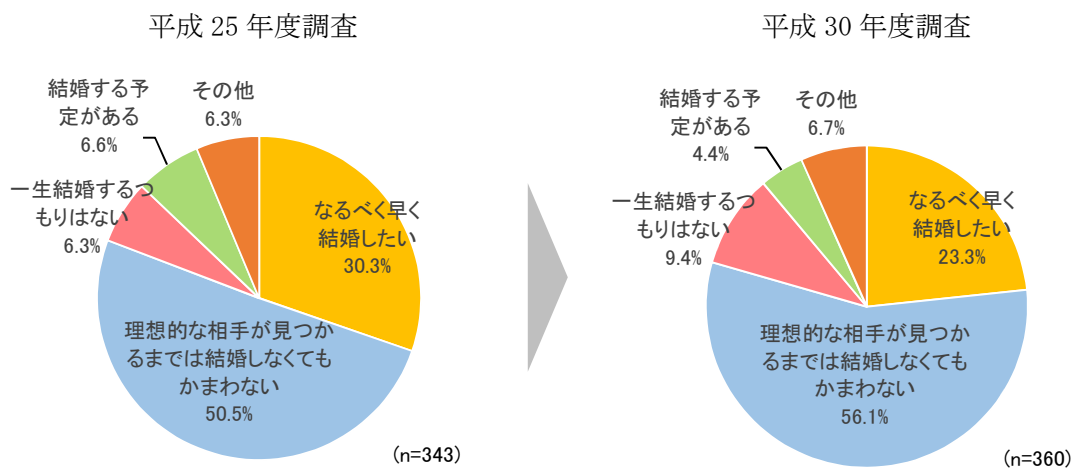
【図5】平均初婚年齢の推移（全国・島根県）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

- 島根県子育て・結婚支援に関する意識調査（H30）では、未婚者の結婚に対する考え方については、「なるべく早く結婚したい」が大幅に減少する一方、「一生結婚するつもりがない」は増加しています。

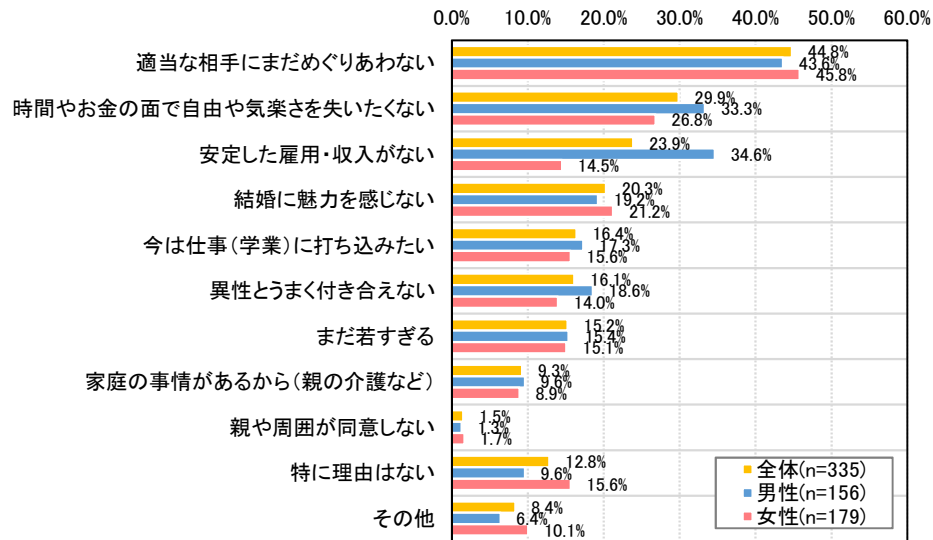
【図6】未婚者の結婚に対する考え（島根県）



資料：「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」（平成 31 年 3 月）

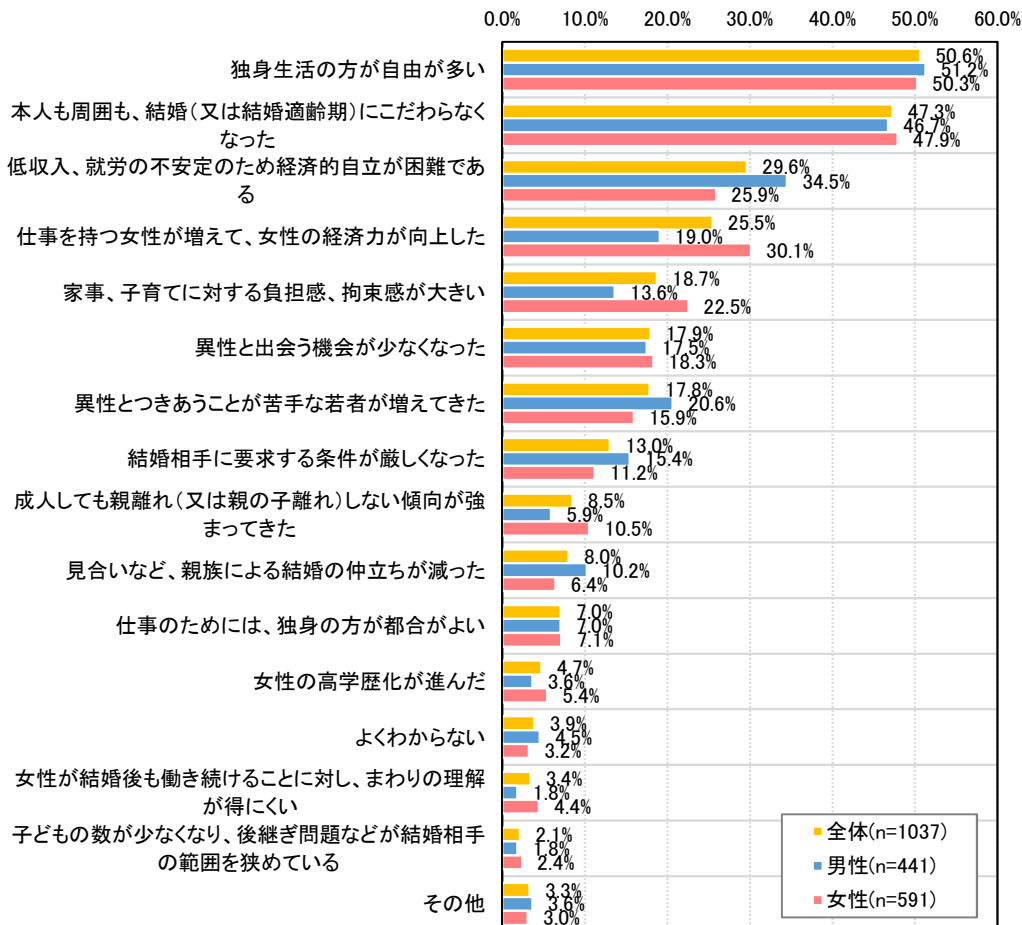
- 結婚しない理由としては、「適当な相手にまだめぐりあわない」こと、特に男性では「安定した雇用・収入がない」、女性では、「時間やお金の面で自由や気楽さを失いたくない」が理由の上位となっています。また、「結婚に魅力を感じない」との回答は、前回調査（H25）より大幅に増加しています。

【図7】結婚に対する意識 独身でいる理由〈複数回答〉（島根県）



資料：「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」（平成 31 年 3 月）

【図8】結婚しない人が増えている理由（島根県）



資料：「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」（平成 31 年 3 月）

## (2) 夫婦の出生児数の減少

- 「理想的な子どもの数」「実際に予定している子どもの数」ともに、平成15年度調査より減少しています。特に「実際に予定している子どもの数」の減少傾向が進んでいます。

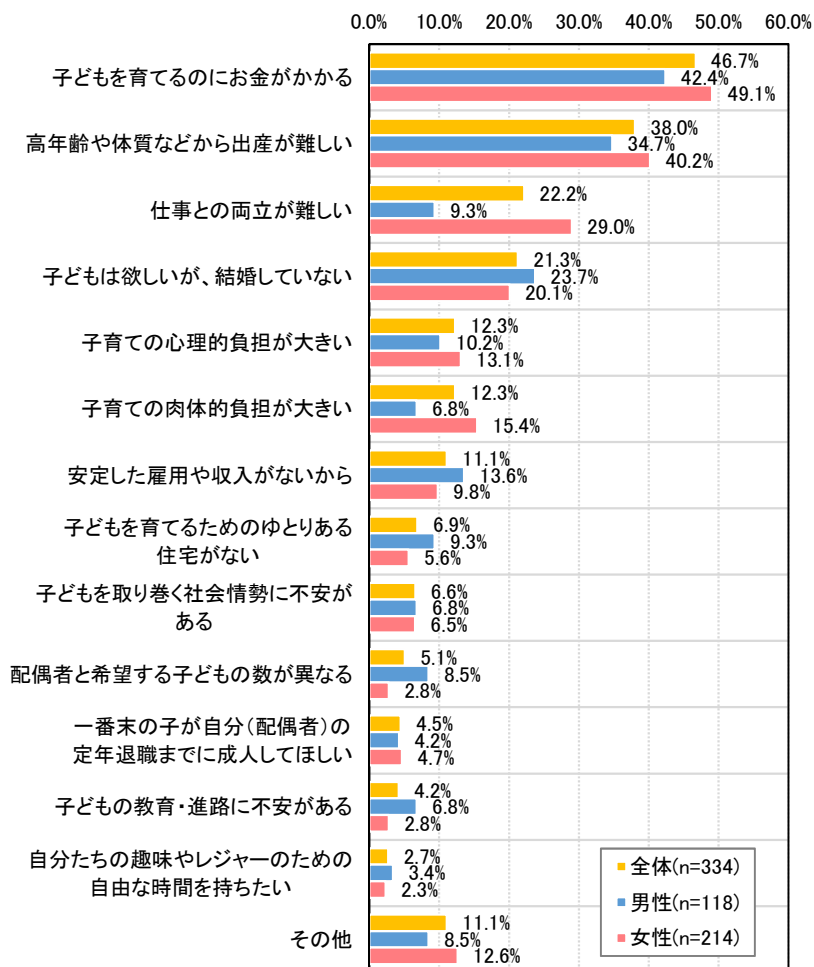
【表1】「理想的な子どもの数」と「実際に予定している子どもの数」の関係（島根県）

調査年度	理想的な子どもの数（平均）				実際に予定している子どもの数（平均）			
	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳
H30	2.5	2.3	2.5	2.5	1.8	1.5	2.0	1.8
H25	2.6	2.5	2.6	2.6	2.0	1.8	2.1	1.9
H22	2.7	2.5	2.7	2.8	2.0	1.6	2.0	2.1
H15	2.7	2.4	2.6	2.8	2.2	2.0	2.0	2.3

資料：「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」（平成31年3月）

- 「理想の子どもの数」より「実際に予定している子どもの数」が少ない理由として、「子どもを育てるのにお金がかかる」が最も高くなっています。特に、「仕事との両立が難しい」との理由は、前回調査（H25）の約2倍に増加しています。

【図9】実際に予定している子どもの数が理想より少ない理由〈複数回答〉（島根県）

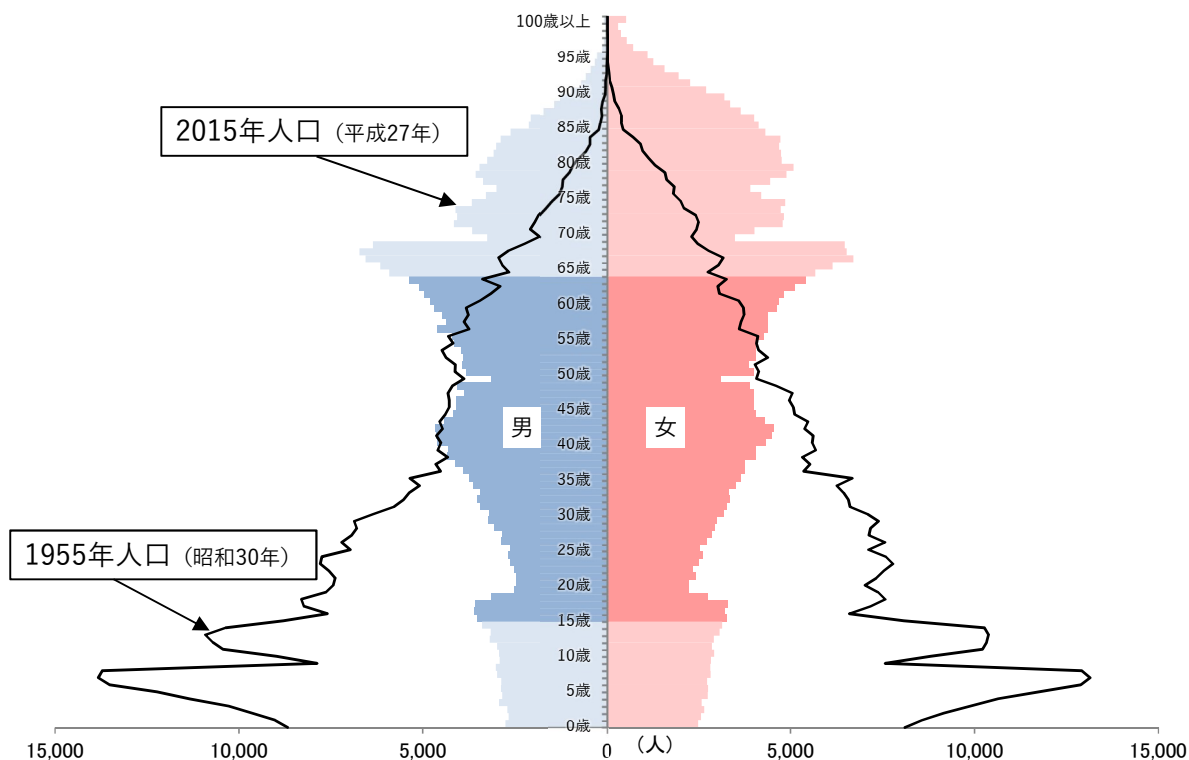


資料：「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」（平成31年3月）

### (3) 子どもを産む若い世代の減少

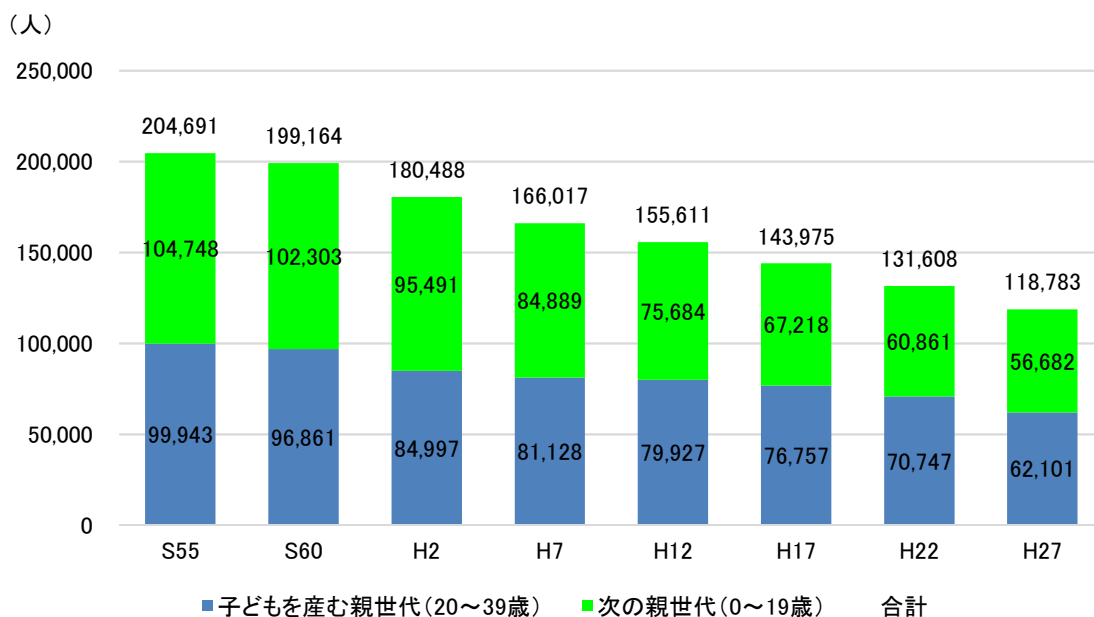
- 島根県では就学・就職による若者の県外への転出者が県外からの転入者を超過する状況が長く続いており、子どもを産む親世代の人口が減少しています。

【図 10】年齢構成（島根県）



資料：総務省統計局「国勢調査」

【図 11】子どもを産む親世代（女性）の推移（島根県）

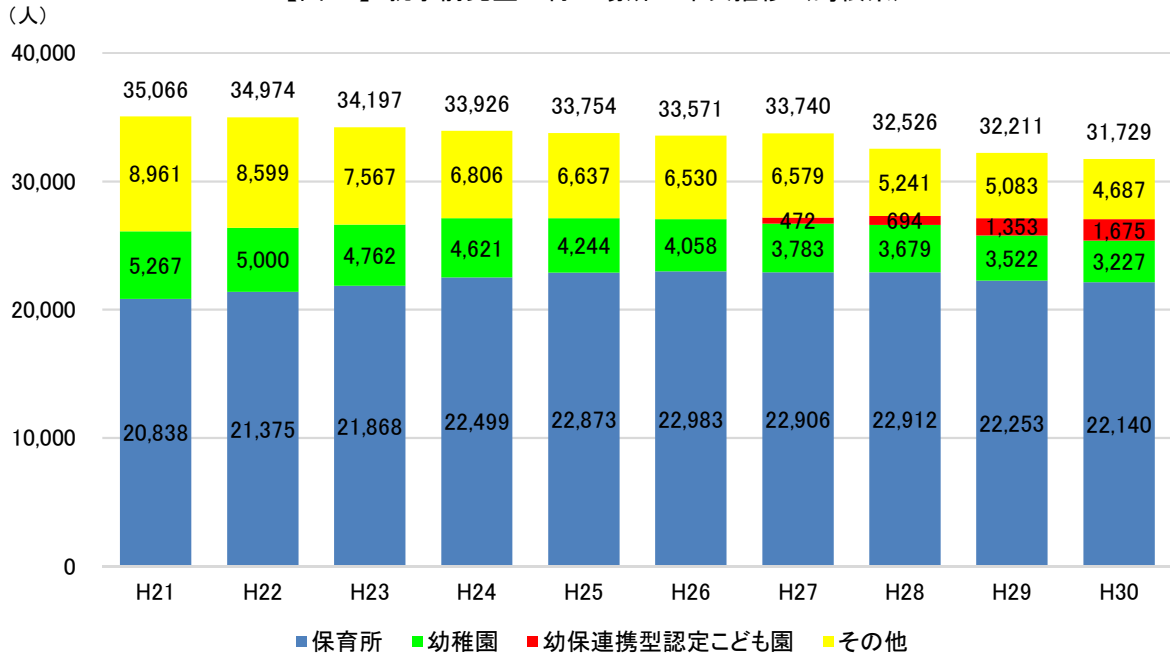


資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

### 3 就学前児童の状況

- 島根県では就学前児童は減少していますが、保育所、認定こども園等の入所児童数の割合は増加しています。一方で、幼稚園の入所児童数や在宅等で保育を受ける児童は減少しています。

【図 12】 就学前児童が育つ場所の年次推移（島根県）

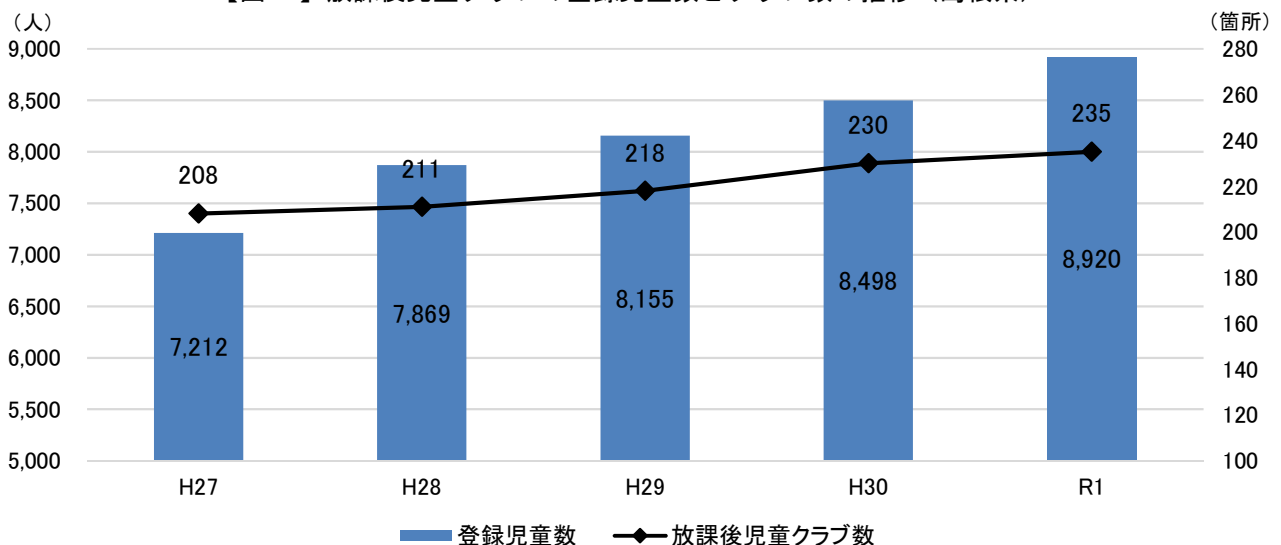


資料：就学前児童数（10月1日現在（6歳未満））：総務省統計局「人口推計年報」  
 保育所入所児童数（10月1日現在）：厚生労働省大臣官房統計情報部「福祉行政報告例」  
 幼稚園園児数（5月1日現在）：文部科学省「学校基本調査」  
 認定こども園園児数：

### 4 放課後児童クラブの状況

- 島根県では、平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間で、放課後児童クラブの登録児童数は約 24%（1,708 人）、放課後児童クラブ数は約 13%（27 か所）増加しています。

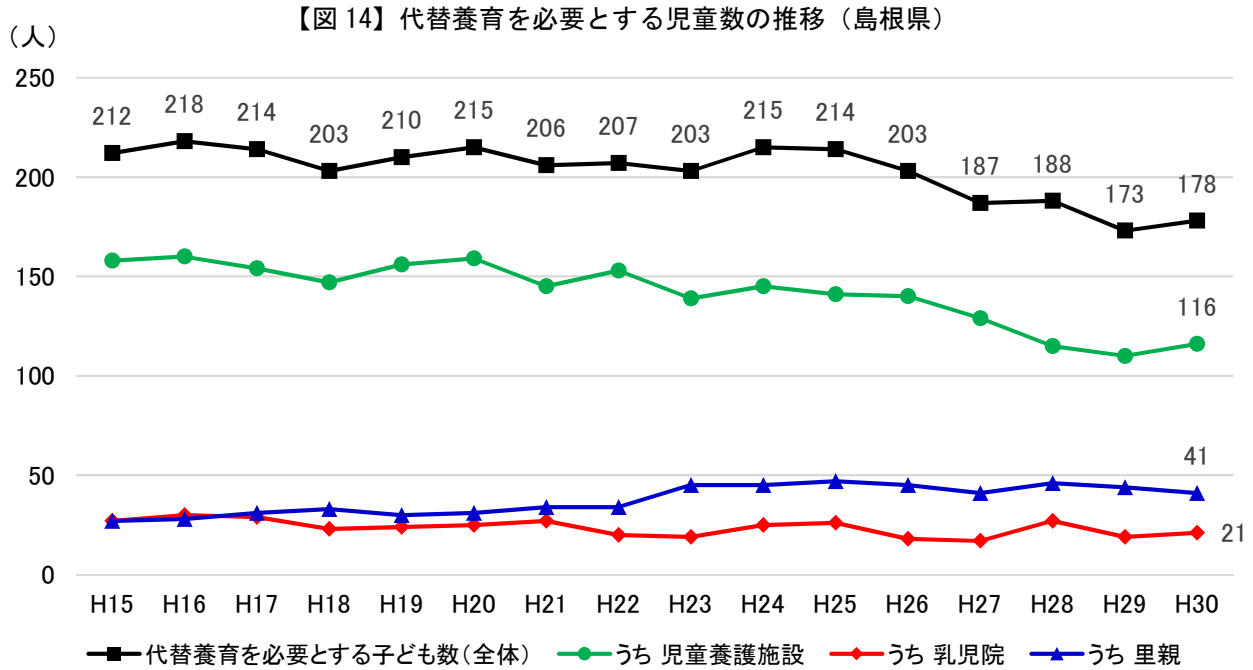
【図 13】 放課後児童クラブの登録児童数とクラブ数の推移（島根県）



資料：厚生労働省子ども家庭局「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況」

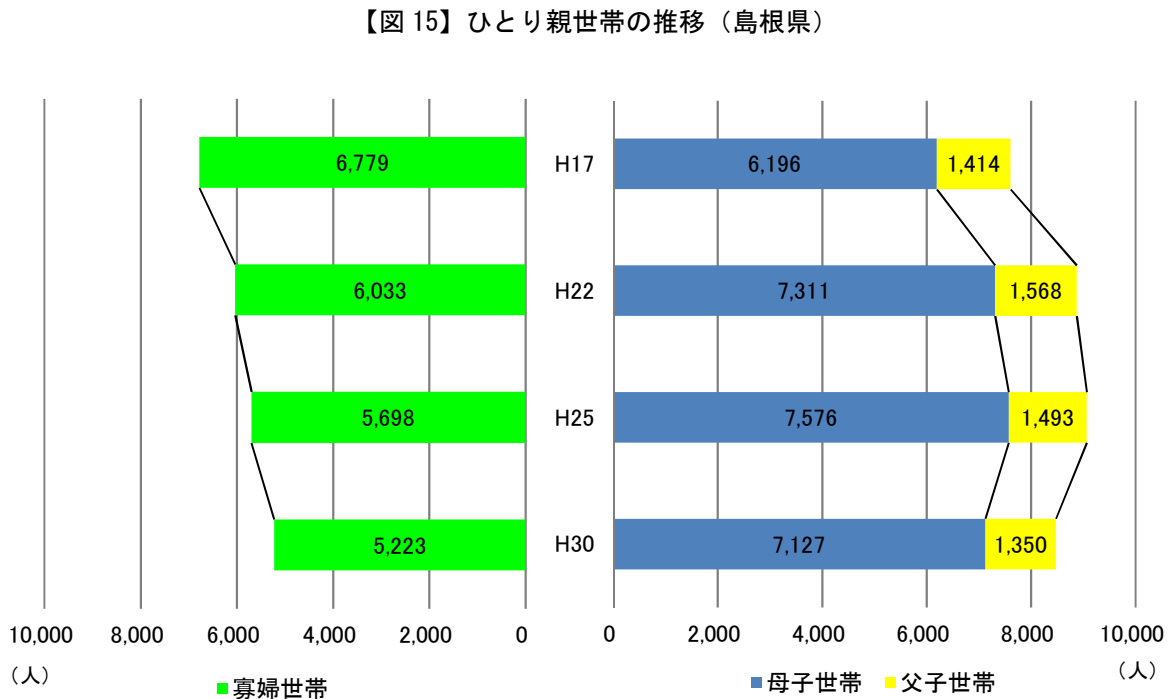
## 5 代替養育を必要とする児童

- 島根県内の代替養育を必要とする児童は、平成 25 年度まで横ばいで推移していましたが、近年は減少傾向にあります。



## 6 ひとり親家庭等の状況

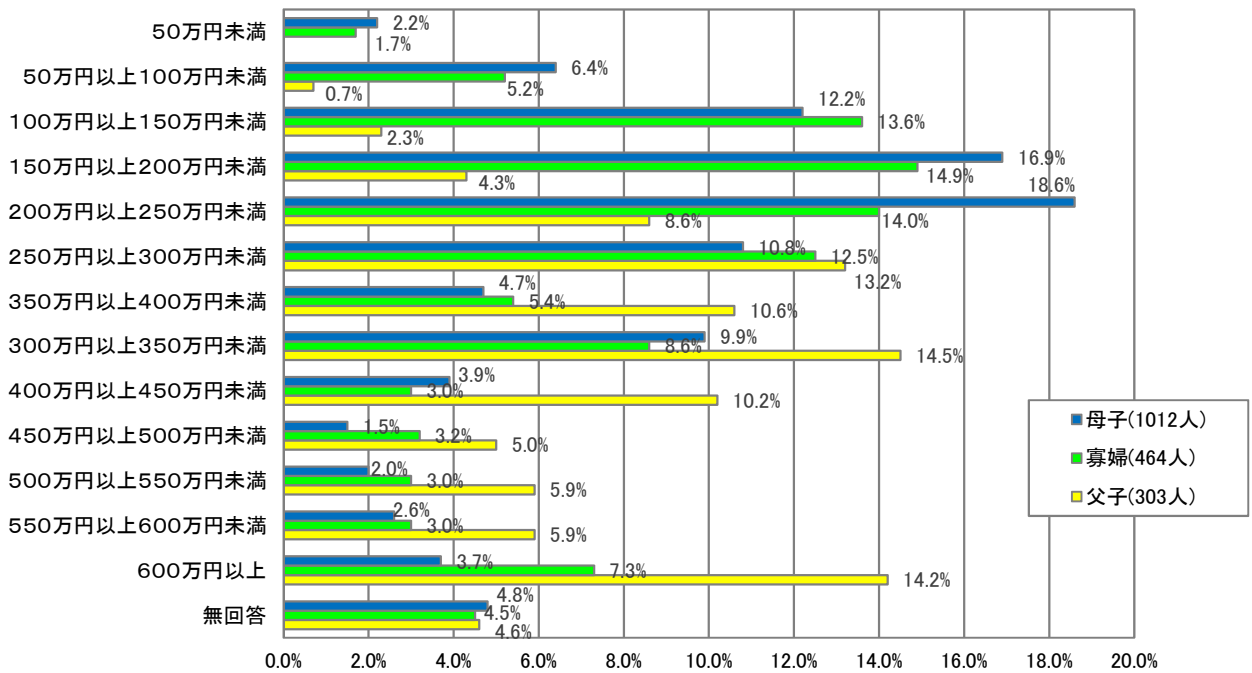
- 島根県内の母子世帯、父子世帯は平成 25 年まで増加傾向でしたが、平成 30 年は減少しています。





- 「島根県ひとり親家庭等実態調査 (H30)」によれば、ひとり親世帯の年間総収入額は、父子世帯に比べ母子世帯が低くなっています。

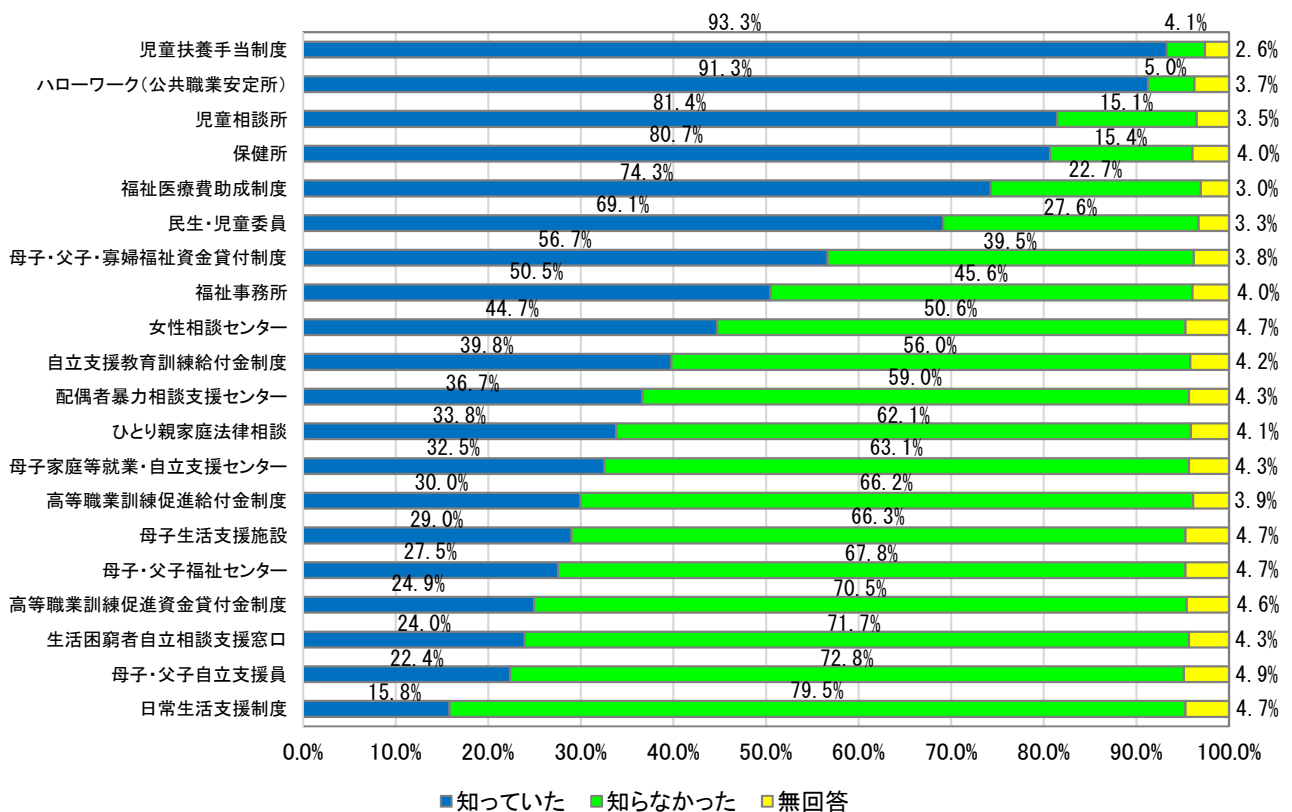
【図 16】ひとり親世帯の年間総収入 (島根県)



資料：「島根県ひとり親家庭等実態調査」(平成 31 年 3 月)

- 困ったことの解決につながる支援制度等を知られない母子世帯、父子世帯が多くあります。

【図 17】母子世帯・父子世帯の公的制度や相談機関の認知割合 (島根県)



資料：「島根県ひとり親家庭等実態調査」(平成 31 年 3 月)